

# 特集

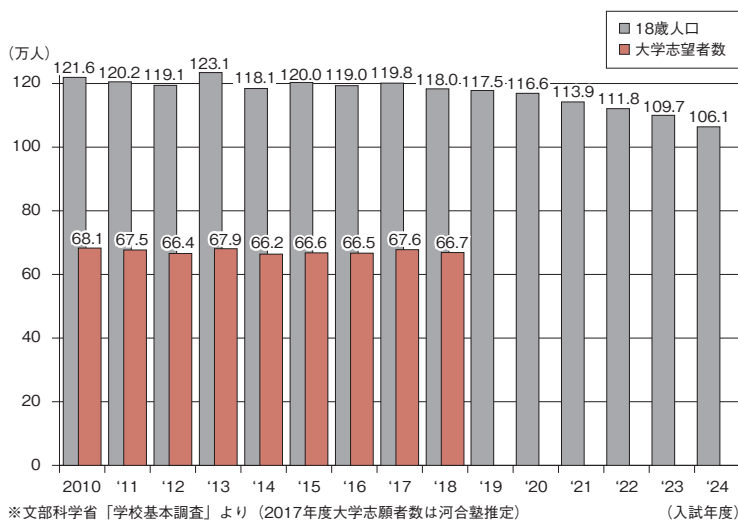
# 2017年度 大学入試を振り返る

本誌4・5月号では、2017年度入試の速報として大学入試センター試験の概況と国公立大、主要私立大の出願状況についてお伝えした。

この度、全国の高等学校の先生方にご協力いただき、約201万件の貴重な入試結果調査（可否）データを集めることができた。また、各大学からも最終的な入試結果資料を送付いただいている。本誌ではこれらの集計結果を踏まえ2017年度入試を総括する。なお、個々の大学の入試結果については27ページ以降に掲載しているのではありません是非ご活用いただきたい。

## 受験人口の変化

### ●18歳人口と大学志願者数の推移



2017年度は18歳人口が増加しており、現役志願者数も2%程度増えたと推測される。大学志願者は都市部で増加が目立つほか、2016年度入試における私立大の合格者数抑制の影響で、既卒生志願者数もわずかながら増加している。なお、18歳人口は近年120万人前後で推移していたが、2018年度以降は減少期に入り、2024年度には2017年度と比べ1割以上減少する見込みだ。

今春の大学入試センター試験（以下、センター試験）の受験者数は前年比102%と上述の人口増に比例して増加した。受験科目数に注目すると、7科目以上の受験者数に大きな変化がみられないのに対し、3科目以下の受験者数が前年比107%と増加率が高い。科目別にみると、理科②受験者が減少する一方で地公受験者が増加しており、文高理低の傾向が反映されている。

## 国公立大学

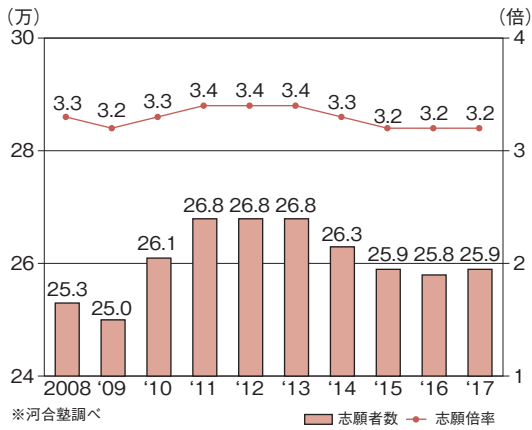
### ●国公立大入試の全体概況

日程	募集人員					志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	15	16	17	16/15	17/16	15	16	17	16/15	17/16	15	16	17	16/15	17/16	15	16	17
前期	80,120	79,934	79,843	100%	100%	258,865	258,193	258,918	100%	100%	92,335	91,861	91,334	99%	99%	2.8	2.8	2.8
中期	1,958	1,958	1,978	100%	101%	26,278	27,333	27,637	104%	101%	4,755	4,700	4,735	99%	101%	5.5	5.8	5.8
後期	19,503	19,251	18,569	99%	96%	189,386	186,113	184,221	98%	99%	25,207	24,808	23,987	98%	97%	7.5	7.5	7.7

※5月26日 河合塾集計

国公立大の志願者数は前・中・後期ともに前年並みだった。センター試験受験者数が前年比102%と増加したことを考えると、低めの数値となった。ただし、後期日程は一部大学の廃止により募集人員が減少し、それに伴い合格者数も減少している。倍率も7.5→7.7倍に上昇した。

## ●国公立大志願者数の推移（前期日程）



左図は国公立大前期日程志願者数の推移と志願倍率だ。

入試動向は社会情勢や入試方式の変更にも影響を受ける。国公立大は学費の安さから、不況時に人気となる傾向がある。近年ではリーマンショック後の不況により志願者が増加したが、2015年度以降は26万人を割り込んでいる。景気回復にプラスして、現行課程になりセンター試験の理科科目で増した負担を敬遠する受験生が増えた様子だ。

## ●学部系統別入試結果（前期日程）

系統	募集人員			志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
	16	17	17/16	16	17	17/16	16	17	17/16	16	17
文・人文	7,046	7,132	101%	22,686	22,649	100%	8,289	8,309	100%	2.7	2.7
社会・国際	3,583	3,482	97%	12,975	12,812	99%	4,662	4,416	95%	2.8	2.9
法・政治	4,364	4,299	99%	13,313	13,955	105%	5,218	5,107	98%	2.6	2.7
経済・経営・商	8,047	8,295	103%	26,154	27,300	104%	9,976	10,309	103%	2.6	2.6
教育－教員養成課程	7,275	7,359	101%	20,188	19,764	98%	8,073	8,133	101%	2.5	2.4
教育－総合科学課程	1,424	910	64%	3,992	2,835	71%	1,606	1,028	64%	2.5	2.8
理	5,225	5,182	99%	15,400	14,680	95%	5,869	5,833	99%	2.6	2.5
工	22,429	22,528	100%	67,728	69,738	103%	25,349	25,349	100%	2.7	2.8
農	5,436	5,492	101%	17,184	16,783	98%	6,125	6,194	101%	2.8	2.7
医・歯・薬・保健	10,521	10,558	100%	40,012	39,857	100%	11,452	11,388	99%	3.5	3.5
医	3,661	3,686	101%	18,342	18,093	99%	3,792	3,796	100%	4.8	4.8
歯	453	455	100%	1,793	1,842	103%	503	492	98%	3.6	3.7
薬	750	751	100%	2,836	3,076	108%	849	841	99%	3.3	3.7
看護	3,869	3,844	99%	11,593	11,274	97%	4,295	4,228	98%	2.7	2.7
医療技術・他	1,788	1,822	102%	5,448	5,572	102%	2,013	2,031	101%	2.7	2.7
生活科学	771	741	96%	2,681	2,426	90%	855	821	96%	3.1	3.0
芸術・スポーツ科学	1,656	1,577	95%	7,941	7,837	99%	1,809	1,694	94%	4.4	4.6
総合・環境・情報・人間	2,157	2,288	106%	7,939	8,282	104%	2,578	2,753	107%	3.1	3.0
全体	79,934	79,843	100%	258,193	258,918	100%	91,861	91,334	99%	2.8	2.8

※5月26日 河合塾集計  
※学部系統の分類は河合塾による

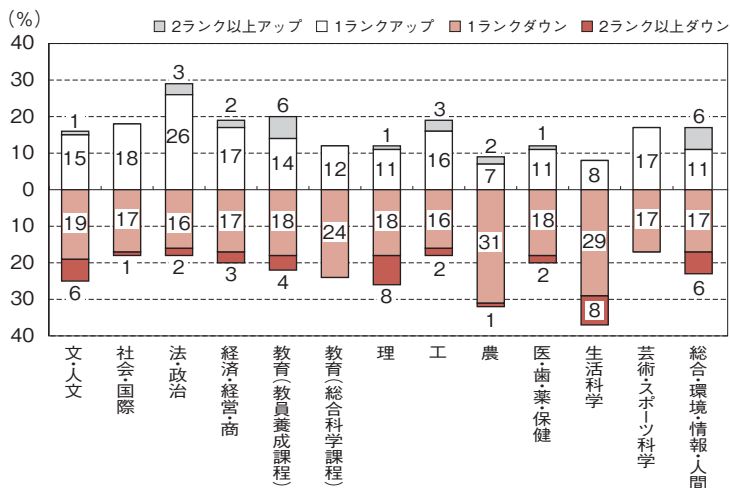
図表は国公立大前期日程の学部・系統別入試結果である。文系学部では、「文・人文」「社会・国際」学系の志願者数は前年並み。ただし、「社会・国際」学系は茨城大（人文社会科学）、横浜国立大（経済、経営）の改組などにより募集人員が減少しており、この2大学を除いた志願者前年比は102%だった。「法・政治」「経済・経営・商」学系は昨年に引き続き志願者が増加した。「法・政治」学系は入試難易度にかかわらず志願者が増加し、「経済・経営・商」学系ではボーダー得点率80%以上の大学で大きく増えた。2017年度のセンター試験では、国公立大文系生が多く受験する「生物基礎」で平均点が大幅にアップし、7科目文系型の平均点も前年度より7点アップした（河合塾推定）。そのためか、「経済・経営・商」学系に代表されるように、文系系統は難関大で志願者の増加が目立った。

教育では「総合科学課程」が3割の志願者減となっているが、これは6大学で総合科学課程が廃止され、募集人員が減少したためであり、倍率は2.5→2.8倍へアップした。

理系は「理」学系、「農」学系が志願者を減らす一方、「工」学系は大学の入試難易度に関係なく志願者の増加がみられた。活発な学部・学科の再編が行われていることも要因だろう。分野別にみると、「電気・電子」「通信・情報」などIT分野や、「建築」分野の増加率が高い。

「総合・情報・環境・人間」学系は志願者前年比104%と増加したが、これは新潟大（創生）、名古屋大（情報）、滋賀大（データサイエンス）、島根（人間科学）の学部新設により募集人員自体が106%増加していたことが主原因だ。これらの新設学部の中には、昨年模試段階ではあまり志望者が集まっていなかった大学もあったが、最終的には志願倍率約3.5～5.0倍ほどの志願者を集めた。

## ●2次ランク 系統別アップ・ダウン率（前期日程）



※河合塾入試結果調査データより

左図は2017年度入試の可否のデータから設定した、2次ランク（各大学が個別に実施する試験の難易度）のアップ・ダウン件数の占有率を系統別に表したものである。

アップが目立つのは「法」学系である。ランクの変化は特定の難易度に限らず、全体的な難化傾向にあった。

一方、文系で同じく志願者が増加した「経済・経営・商」学系は難易度の高い大学でさらに難化し、低い大学は易化するという2極化の傾向をみせた。ダウンした大学の中には2016年度入試で大幅に志願者を増やし、その反動から減少した公立大も散見される。

理系では志願者減となった「理」「農」学系でダウンの割合が高い。

## ●難関10大学入試結果（前期日程）

大学	募集人員			志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
	16	17	17/16	16	17	17/16	16	17	17/16	16	17
北海道	1,939	1,939	100%	5,738	5,540	97%	2,079	2,068	99%	2.8	2.7
東北	1,849	1,811	98%	4,900	4,927	101%	1,942	1,915	99%	2.5	2.6
東京	2,960	2,960	100%	9,278	9,534	103%	3,031	3,012	99%	3.1	3.2
東京工業	886	886	100%	3,892	4,167	107%	932	929	100%	4.2	4.5
一橋	840	840	100%	2,740	2,907	106%	870	872	100%	3.1	3.3
名古屋	1,732	1,734	100%	4,719	4,723	100%	1,842	1,821	99%	2.6	2.6
京都	2,738	2,650	97%	8,029	7,875	98%	2,830	2,743	97%	2.8	2.9
大阪	2,829	2,968	105%	7,337	7,397	101%	2,995	3,201	107%	2.4	2.3
神戸	1,869	1,905	102%	5,776	5,971	103%	2,027	2,020	100%	2.8	3.0
九州	2,045	2,052	100%	5,095	5,190	102%	2,215	2,164	98%	2.3	2.4
全体	19,687	19,745	100%	57,504	58,231	101%	20,763	20,745	100%	2.8	2.8

※5月26日 河合塾集計

難関10大学の入試結果をみると首都圏の3大学は志願者の増加率が高かった。

北海道大の志願者数は前期日程で前年比97%と減少したが、学部ごとにみると文理で明暗が分かれている。理系学部では1割以上の大幅な志願者減が目立つ一方で、文系学部は法学部を除いて増加しており、特に文学部（前年比120%）、教育学部（同126%）は増加率が高い。この2学部は2次ランクも1ランクアップし、②ランク（偏差値62.5）になった。

同じく大学全体で98%の志願者減となった京都大も、文系学部で増加し理系学部では減少した。また、改組に伴い今春入試より学科一括募集となった医学部人間健康科学科は、募集人員は大きく減少した（127→70名）が、志願者数は前年比105%と増加した。募集人員に比例して合格者数も大幅に減ったため、非常に厳しい入試となった。2次ランクは3ランクアップし②ランク（偏差値62.5）となった。

大阪大は全学部での世界適塾入試導入に伴い後期日程を廃止した。大阪大の前期受験者は後期併願先として、大阪市立大や神戸大の文系学部を受験しており、これらの大学では後期日程で大幅な志願者増がみられた。

### ●東京大（推薦入試）

学部(学科)	募集人員		志願者		合格者	
	16	17	16	17	16	17
法	10	10	24	25	14	13
経済	10	10	7	14	4	3
文	10	10	10	13	3	4
教育	5	5	9	6	4	5
教養	5	5	17	24	2	1
工	30	30	47	42	24	23
理	10	10	32	25	11	10
農	10	10	12	11	9	7
薬	5	5	4	3	3	2
医(医)	3	3	9	8	2	2
医(健康)	2	2	2	2	1	1
大学計	100	100	173	173	77	71

### ●京都大（特色入試）

学部(学科)	募集人員		志願者		合格者	
	16	17	16	17	16	17
総合人間	5	5	29	16	5	3
文	10	10	40	42	7	11
教育	6	6	25	21	5	6
法	20	20	324	487	22	23
経済	25	25	77	64	25	19
理	5	5	59	47	5	5
医(医)	5	5	5	5	1	2
医(人間)	16	30	22	56	5	25
薬	3	3	2	3	0	2
工	10	18	13	35	4	8
農	3	18	20	85	3	16
大学計	108	145	616	861	82	120

### ●大阪大（世界適塾入試）

学部(学科)	募集人員		志願者		合格者	
	16	17	16	17	16	17
文	-	30	-	31	-	21
人間科学	-	15	-	21	-	10
外国語	-	64	-	10	-	7
法	-	25	-	5	-	3
経済	-	7	-	2	-	1
理	16	33	12	22	2	5
医(医)	-	若干	-	4	-	1
医(保健)	-	4	-	0	-	0
歯	-	5	-	2	-	1
薬	-	15	-	48	-	17
工	若干	27	0	51	-	8
基礎工	40	45	178	136	40	44
大学計	56	270	190	332	42	118

近年、高大接続改革の流れを受けて、難関大でも多面的評価を重視した推薦・AOなどの入試が導入されている。図は東京大、京

都大、大阪大の入試結果だが、いずれも合格者数が募集人員を下回っており厳しい審査が行われたことがうかがえる。

2017年度で2年目となる**京都大**の特色入試は工・農・医学部で募集人員拡大により志願者が増加した。後期日程で実施される法学部を除いても、志願者は前年比128%と大きく増加した。

**大阪大**の世界適塾入試は学部によって状況が異なり、出願要件として英語外部試験のスコア（取得級）が必須になっている学部では志願者が集まらなかった。認められる資格が限られることもあり、受験生にとっては準備が間に合わないなどハードルが高かったようだ。

2018年度は東北大でAO入試が拡大され、一橋大で全学部センター試験を課す推薦入試が拡大されるなど、推薦・AO入試の実施はさらに拡大の方向だ。一方、一橋大はこれに伴い、社会・法学部の後期日程を廃止する（経済学部は継続）。難関大志望者の後期出願先はさらに限られることになる。

## ●2018年度入試のトピックス

2018年度は石川県に**公立小松大**、長野県に**長野県立大**が新設される。公立小松大は別日程で、長野県立大は前・中期日程で募集する。長野県ではほかにも諏訪東京理科大が2018年度からの公立大学法人化をめざしている。来春の募集は私立大として行われるが、認可が下りれば長野県内に新たに2つの公立大が誕生する。

来春も学部再編・改組の動きが活発だ。**広島大**は工学部を改組し第二類の情報工学課程を吸収して情報科学部を新設する。また、総合科学部には文理融合型のリベラルアーツ教育を行う国際共創学科が新設されるなど、全学的な再編が予定されている。**九州大**も文理融合型の共創学部を新設する。国際社会の問題解決に向けて実学的な教育を予定しており、定員は105名だ。**九州工業大**は工学部と情報工学部を改組し、工学部は1～5類、情報工学部は1～3類の類別で募集する。

**お茶の水女子大**（生活科学－心理）や**香川大**（医－臨床心理）では心理系の学科新設が検討されている。心理系では初の国家資格である公認心理師の誕生をみこして国私ともに学部・学科新設の動きがあり、今後注目を集めそうだ。

# 私立大学

## ●私立大入試の全体概況

	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	15	16	17	16/15	17/16	15	16	17	16/15	17/16	15	16	17
全体	3,017,362	3,131,003	3,367,292	104%	108%	931,559	938,571	921,676	101%	98%	3.2	3.3	3.7
方式別													
一般	2,046,603	2,136,402	2,305,737	104%	108%	572,381	580,258	563,561	101%	97%	3.6	3.7	4.1
センター	970,759	994,601	1,061,555	102%	107%	359,178	358,313	358,115	100%	100%	2.7	2.8	3.0
期別													
一期	2,808,046	2,904,287	3,104,023	103%	107%	868,276	878,681	866,162	101%	99%	3.2	3.3	3.6
二期	209,316	226,716	263,269	108%	116%	63,283	59,890	55,514	95%	93%	3.3	3.8	4.7

※5月26日現在 河合塾集計（535大学判明分）

※2015～17年度の志願者数・合格者数公表大学を集計（合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く）

※大学公表値には一部推薦入試等の数字が含まれている場合がある

※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

私立大一般入試の志願者数（延べ数：以降すべて同じ）は、一般方式・センター利用方式ともに増加し、私立大全体で前年比108%となった。私立大では2007年度以降、志願者数増加が続いている。受験生にとって出願しやすい仕組み（インターネット出願、一度の試験で複数学部・学科への出願を認める、同時に複数の方式に出願すると受験料を割引くなど）の拡大が延べ志願者数の増加につながっている。

今春入試では、**東洋大**、**日本大**、**法政大**、**明治大**、**早稲田大**、**近畿大**の6大学で志願者数10万人を超えた。特に近畿大は1992年度入試の日本大・早稲田大以来の14万人超えとなった。

一方、合格者数は私立大全体で前年比98%と減少した。私立大では定員超過による国の補助金不交付のルールが2016年度から厳格化されている。2017年度は定員超過率の基準がさらに厳格化されたため、2016年度以上に合格者を絞り込む動きがみられた。

方式別にみると、センター利用方式の合格者数は前年並みだったが、一般方式で減少が目立つ。また、一期入試では思うように合格できなかった受験生が多かったことから、二期入試では志願者数が前年比116%と大幅に増加したが、合格者数の減少率は一期以上に高く、倍率は3.8→4.7倍に跳ね上がった。大学によっては一期入試合格者の入学手続率が例年以上に良く、二期入試の合格者を大きく減らさざるをえないところもみられた。極端な例では合格者が1人という入試区分もみられた。



## ●学部系統別入試結果

系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	15	16	17	16/15	17/16	15	16	17	16/15	17/16	15	16	17
文・人文	561,310	588,588	616,933	105%	105%	191,839	190,435	179,051	99%	94%	2.9	3.1	3.4
社会・国際	291,929	299,416	349,743	103%	117%	94,270	94,412	91,567	100%	97%	3.1	3.2	3.8
法・政治	223,670	248,452	262,526	111%	106%	78,239	78,185	69,504	100%	89%	2.9	3.2	3.8
経済・経営・商	553,788	594,816	681,600	107%	115%	170,633	171,354	165,479	100%	97%	3.2	3.5	4.1
理	128,839	124,724	121,175	97%	97%	41,226	41,933	42,420	102%	101%	3.1	3.0	2.9
工	541,202	558,046	592,810	103%	106%	160,178	163,239	173,061	102%	106%	3.4	3.4	3.4
農	102,054	98,240	105,588	96%	107%	27,484	27,283	28,795	99%	106%	3.7	3.6	3.7
医・歯・薬・保健	333,675	331,781	333,239	99%	100%	74,601	78,332	80,512	105%	103%	4.5	4.2	4.1
医	93,900	95,761	97,211	102%	102%	5,210	5,562	5,564	107%	100%	18.0	17.2	17.5
歯	6,855	6,774	6,415	99%	95%	2,179	2,191	2,338	101%	107%	3.1	3.1	2.7
薬	95,314	86,397	82,939	91%	96%	23,506	24,457	24,601	104%	101%	4.1	3.5	3.4
看護	71,553	76,478	79,358	107%	104%	22,105	23,543	24,511	107%	104%	3.2	3.2	3.2
医療技術・他	66,053	66,371	67,316	100%	101%	21,601	22,579	23,498	105%	104%	3.1	2.9	2.9
生活科学	82,616	80,249	77,604	97%	97%	28,583	28,406	28,434	99%	100%	2.9	2.8	2.7
芸術・スポーツ科学	87,846	90,915	97,438	103%	107%	27,678	29,465	28,922	106%	98%	3.2	3.1	3.4
総合・環境・情報・人間	110,036	115,776	128,284	105%	111%	36,543	35,527	33,916	97%	95%	3.0	3.3	3.8
全体	3,016,965	3,131,003	3,366,940	104%	108%	931,274	938,571	921,661	101%	98%	3.2	3.3	3.7

※5月26日現在 河合塾集計、学部系統の分類は河合塾による。数値は一般＋センター方式の合計

※2015～17年度の志願者数・合格者数公表大学を集計（合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く）

※大学公表値には一部推薦入試等の数字が含まれている場合がある

※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

※「全体」の数値が他の集計と一致しないのは、入試方式により大学計しか公表しない大学があるため

図表は私立大の学部系統別の入試結果を集計したものの。昨春までの鮮明な文高理低とはやや状況が異なる。

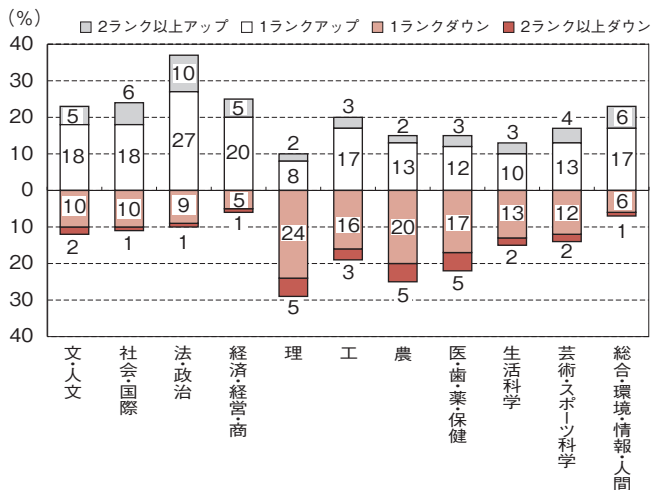
文系ではすべての系統で志願者は増加しており、特に「**社会・国際**」「**経済・経営・商**」学系での志願者増が目立つ。国公立大では人気のあった「**法・政治**」学系だが、私立大の増加率はやや低めとなっている。

理系では「**理**」学系で志願者が減少し、「**工**」「**農**」学系で増加した。「**農**」学系の志願者増加は生命科学部を新設した**東京農業大**、理系学部で新たな併願方式を導入した**近畿大**の影響が大きい。

医療系では「**医**」で前年比102%、「**看護**」で104%と志願者が増加しているが、これは新設の学部・学科による影響が大きく、既存の学部・学科では志願者が減少しているところもみられた。「**歯**」は3年連続で志願者が減少し、不人気となっている。

なお、合格者数は文系学部を中心に減少しており、軒並み倍率が上昇している。特に社会科学系で大きく上昇しており、厳しい入試となった。一方、理系、医療系では合格者が増加した系統が目立つ。

## ●一般方式 系統別ランクアップ・ダウン率



※河合塾入試結果調査データより

図表は私立大一般方式について2017年度のボーダーランクのアップ・ダウン件数の占有率を系統別に表したものである。文系ではランクアップ、理系ではランクダウンの件数が多いことが分かる。「**経済・経営・商**」学系では、系統人気に伴い、偏差値帯にかかわらずランクアップしており、難化した大学が多くみられた。

## ●大学グループ別入試結果

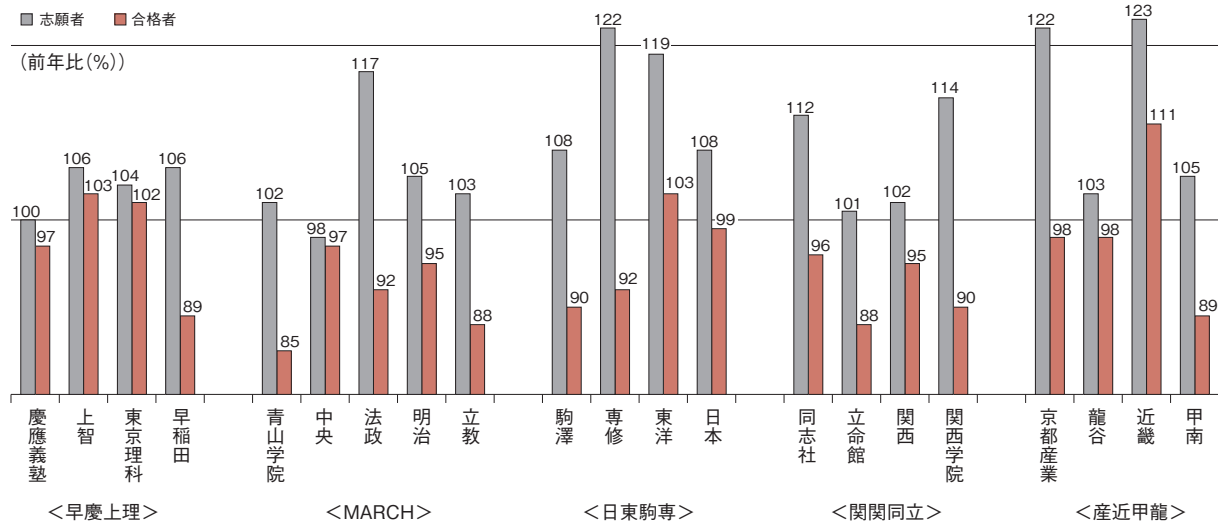
	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	15	16	17	16/15	17/16	15	16	17	16/15	17/16	15	16	17
535大学 計	3,017,362	3,131,003	3,367,292	104%	108%	931,559	938,571	921,676	101%	98%	3.2	3.3	3.7
早慶上理	230,694	231,988	242,620	101%	105%	50,582	49,390	47,520	98%	96%	4.6	4.7	5.1
MARCH	395,595	406,294	430,363	103%	106%	84,375	86,056	79,216	102%	92%	4.7	4.7	5.4
日東駒専	240,818	264,728	299,891	110%	113%	73,582	74,762	73,468	102%	98%	3.3	3.5	4.1
関関同立	261,478	265,291	279,885	101%	106%	80,531	82,344	75,478	102%	92%	3.2	3.2	3.7
産近甲龍	209,024	220,784	257,664	106%	117%	47,971	48,263	50,004	101%	104%	4.4	4.6	5.2

※5月26日現在 河合塾集計 (535大学判明分)

※2015~17年度の志願者数・合格者数公表大学を集計 (合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く)

※大学公表値には一部推薦入試等の数字が含まれている場合がある

※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む



※5月26日現在 河合塾集計

大学グループごとの志願者数をみると、首都圏では「早慶上理」は前年比105%、「MARCH」は同106%、「日東駒専」は同113%、近畿圏では「関関同立」は前年比106%、「産近甲龍」は同117%となっている。いずれも後のグループほど増加率が高くなっており、受験生がより手堅い出願を選択した様子が見える。

合格者数については、「産近甲龍」を除くすべてのグループで減少した。大学別にみると、合格者数が増加したのは上智大、東京理科大学、東洋大、近畿大の4大学のみ。志願者数は中央大を除くすべての大学で増加していることから、厳しい入試となったことが分かる。早稲田大は志願者が7千人近く増えたにもかかわらず、合格者を1割以上減らした。今春、前年より380人増の2,706人（前年比116%）の補欠者を発表していたが、実際に合格となったのはわずか87人（同20%）だった。一般方式のボーダーランクも4分の1の区分でランクアップした。近畿大は920名の入学定員増の影響もあり合格者数も1割以上増加したものの、大学全体で約2万7千人の大幅な志願者増加となったため、厳しい入試となった。

## ●2018年度入試のトピックス

2018年度のトピックスの1つは入学定員増の動きである。前述の定員超過抑制への対応策として、収容定員そのものを増やす動きが来春も続く。3月に入学定員増の認可申請を行った大学は全国で46大学5,818名の増員となっている。6月にも再度定員増の申請が可能であり、大学数、増員数はさらに増える見込みだ。

2つめは入試における英語外部試験活用のさらなる拡大である。法政大（法-法律・国際政治、理工）、明治大（商）、立教大、関西大（政策創造、経済）などで英語外部試験を活用した入試方式が新規に実施されるほか、駒澤大、早稲田大（国際教養）、京都産業大、立命館大（情報理工-情報システムグローバル、理工）などでは一部の方式で英語外部試験の利用が可能になる予定だ。

このほか、来春は育英大、新潟食料農業大の新設に加え、多くの学部・学科の新設が予定されている。特に看護や医療系の新設が目立つ。

今回は本誌10月号にて、2018年度入試の変更点を交えつつ、最新の入試動向をお伝えする。